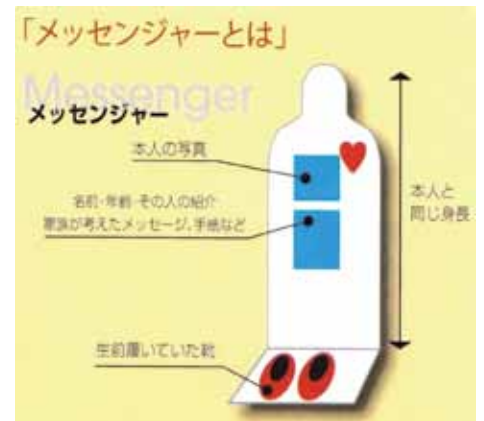


活動報告書

生命のメッセージ展 in みえ 2013—希—

① 活動の目的

「生命のメッセージ展」とは、犯罪・事故・いじめ・医療過誤・一気飲ませ等の結果に理不尽に生命を奪われた方々が主役のアート展です。ひとりひとりの等身大のパネルをメッセンジャーと呼び、その足元には「生きた証」である靴を置き、遺された家族からのメッセージが書かれています。メッセンジャーと対面していただくことで、生命の尊さや重みを伝えていきます。



② 活動を始めるきっかけ

「生命のメッセージ展 in みえ」とは、三重県の大学連合開催の固有の呼称です。2009年12月より、三重県内の大学から有志の大学生が集まり、「生命の尊さや重み」を発信することを目的に、2010年に四日市文化会館、2011年に鈴鹿市民会館、2012年に川越町あいあいセンターで「生命のメッセージ展 in みえ」を3回開催してきました。今年度は2013年3月3日に亀山市文化会館 中央コミュニティセンターにて開催します。

③ グループのメンバー構成

大学という垣根を越えて、三重県内の5つの大学（皇學館大学、鈴鹿医療科学大学、鈴鹿国際大学、三重大学、四日市大学）に通う大学生たちが有志で集まり、顧問や代表の力を借りつつ、大学生を中心に大学連合を組んで実行委員で運営しています。また、大学が異なり、話す機会や交流もなかなかできないため、会議のある日や作業日の時に打ち上げを行なっています。

代表：栗原輝雄（皇學館大学教授）

顧問：鷺見三重子（「生命のメッセージ展」実行委員）

仲律子（鈴鹿国際大学准教授）

実行委員：皇學館大学5名、鈴鹿医療科学大学5名、鈴鹿国際大学4名、
三重大学12名、四日市大学4名（計30名の予定）

④ 現在の主な取組内容



今年度のテーマを「希」とし、メッセンジャーから生きることを感じていただき、生きるエネルギーとなる「希望」を受け取っていただけるようなメッセージ展を創っていかうと思っています。また、今回のメッセージ展では2001年に起こった附属池田小事件についての特別ブースを設ける予定です。現副実行委員長が事件当時附属池田小学校の6年生でした。彼女の「事件を風化させたくない」「事件を経験したからこそ伝えることができる命の大切さを発信したい」という思いからこの企画が始まりました。事件で命を奪われてしまった天使たちをお迎えする予定です。

また、開催に向けて現段階では主に【協賛】【広報】【文集】の3班に分けて活動しています。



【協賛】：開催にはたくさんの費用がかかるため、開催地である亀山市の企業や店舗に電話や直接訪問することでメッセージ展の趣旨を理解していただいています。そして、協賛金という形で協力していただけないかお願いし、運営に必要な資金を集めています。協賛していただける企業にはカラーチラシや文集に広告を載せさせていただくようにしています。

【広報】：当日多くの方に来場していただくために情報を発信しています。生命のメッセージ展 in みえの開催を多くの方に知ってもらうこと、またメッセージ展の目的である「生命の重み」を感じていただくために、TV、ラジオ、新聞、雑誌等の広告媒体による宣伝の依頼をしています。

【文集】：主に開催地にある各学校に依頼しに行ったり、文集の編集を行ったりしています。今年度は開催地である亀山市内の小・中・高等学校の児童生徒に対して生命やテーマの「希」について説明を直接お話しに伺い、考えや思いを「みんなの願い事」にのせて書いてもらいます。その一部を抜粋して1冊の文集を作ります。また、その作品を当日会場に展示します。文集は、参加家族の方にも好評であり、そして作品をご覧に多くの方の来場が見込まれる重要な役割であります。



○今回開会式でマーチングドリルをしていただく亀山愛児園の園児に向けて

当日なぜ演奏するかを知ってもらうため、①私たち一人ひとりの生命は大切なものであること ②生命のメッセージ展について知ること ③当日、メッセージみんなのためにマーチングをすること の3つのことを園児に興味を持ち、かつわかりやすくするために、パンダのパペットを惹きつけ役として、唄を歌ったり、絵本やペープサートでお話ししました。以下はお話した内容です。

- ① 「しゃぼん玉」を歌い、歌の意味をお話します。
- ② ・「生」については『ちびゴリラのちびちび』を拡大してからラミネート加工しました。
ここではひとりひとりの生命はかけがえのないものだと伝える。
・「死」については『ずっとつながっているよ』の登場人物をペープサートで作り、不幸にも一緒にいられなくなった人たちがいることをメッセージ展の説明につながるようお話します。
- ③ ・「生と死」について絵本を読んだ後に、家族や友達と一緒にいられなくなった人がメッセージになったこと、メッセージ展についてお話します。
- ④ ①②③ のことを踏まえて、当日はメッセージのために演奏してねとお願いします

○また、冒頭にも記載しましたが、附属池田小事件を間近で体験した副実行委員長が「事件を風化させたくない」という思いを、当時小学6年生ながら感じた気持ちや行動を体験談と教師になる人たちに向け、鈴鹿国際大学、三重大学、皇學館大学で行いました。



⑤ 現在の課題と今後の方向性、夢

今後の予定は4点あります。①開催に向け継続して協賛活動をしていくこと ②メディアと連携をとり広報活動を進めていくこと ③会場の設営をどのようにすればメッセージが輝けるか、来場者の方が見やすいのか、興味を持ってもらえるかなどを具体的に考え、準備していくこと ④完成したカラーチラシ（次のページに今年作成したものを載せておきました）や文集の確認や配布をしていくことです。

これを読んで少しでも興味を持っていただければとても嬉しいです。「生命のメッセージ展 in みえ」より多くの方が来場され、生命の尊さや重みを感じていただくことを通して、1人ひとりの生命に対する意識が変わること、そして、生命が守られる社会になることを願っています。



いのち 生命の メッセージ 展

血みえ 2013

～ 生きた証を 生きていく意思に～ 「希」



**入場
無料**

2013・03・03 (日)

11:00 ~ 18:00

会場: 亀山市文化会館
中央コミュニティセンター

お問い合わせ先: TEL: 059-213-8211
公益社団法人 みえ犯罪被害者総合支援センター
URL: <http://inochi-mie.com/>

「生命のメッセージ展」とは、犯罪・事故・いじめ・医療過誤・一気飲ませなどの結果、理不尽に生命を奪われた犠牲者が主役のアート展です。

犠牲者ひとりひとりの等身大の人型パネル、その足元に「生きた証」である靴、そして遺された家族の言葉などのメッセージを通して、犯罪被害者・遺族の心情を訴え、共に、「生命の重み」を伝えています。

私たちは生命が暴力的に奪われることのない、生命をしっかり守ることの出来る社会の実現を夢見ているのです。

「生命」とは「命が生まれる」「命を生きる」、人型となった犠牲者たちは、「生命の重み」を伝えるメッセンジャーとなって生きているのです。



<プログラム>

11:00~11:30 開会式

- ・やまぎり蒔さんの詩の朗読
- ・亀山愛児園マーチングドリル

17:30~18:00 閉会式

生命のメッセージソング「繋ぐれ命」



主催: 特定非営利活動法人いのちのミュージアム・「生命のメッセージ展(血みえ)」実行委員会
共催: 豊学館大学・鈴鹿医療科学大学・鈴鹿国際大学・三重大学・四日市大学
後援: 内閣府・文部科学省・法務省・三重県・三重県警察・三重県教育委員会・亀山市・亀山市教育委員会・公益社団法人みえ犯罪被害者総合支援センター・社会福祉法人亀山市社会福祉協議会

THEIR LIVES WERE TOO SHORT

いのち 生命の メッセージ 展

2013年開催地

119市原刑務所

協賛団体・企業

財団法人三重県交通安全協会、古河グループ労働組合連合会三重支部、東海労働会庫亀山支店、連合三重亀山地域協議会、亀山自動車学校、亀山地区労働者福祉協議会、カメヤマ株式会社、三重銀行、株式会社はくせい、JAグループ三重、伊勢国一の宮崎田彦大本宮橋大神社、三重ヤクルト販売株式会社、早川印刷株式会社、株式会社ヤマト、有限会社小林フーズ、もみほくしことり、中勢自動車学校、ハヤシ住宅株式会社、ウレタノカフェ、津トップスイミングクラブ、伊丹東塾、堀田建設株式会社、樹さくや亀山さくや会館、三重執業株式会社、田中佛糧店、お好み中華ひまわり特定非営利活動法人あらのスポーツクラブ

日本郵政 郵便事業  デザ アートセンター

来場者一人ひとりに、「命への愛おしさ」を赤い毛糸に託してつなげていただいています。想いをつなげ、命をつなげます。



生命の
メッセージ展
in みえ
の足跡



2010.3.7(日)
四日市市文化会館



2011.2.27(日)
鈴鹿市民会館・展示室



2012.2.25(土)
川越町あいあいセンター内展示ホール

 三重大学

 四日市大学

 鈴鹿医療科学大学

皇學館大学

皇學館大学
鈴鹿国際大学

SUZUKA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE
鈴鹿医療科学大学

これまでに三重県では 2005 年に津市、2006 年に鈴鹿国際大学、桑名市立益世小学校、2009 年に三重大学、皇學館大学、2010 年に四日市市文化会館、現学園高等学校、鈴鹿医療科学大学、2011 年に鈴鹿市民会館展示室、2012 年に川越町あいあいセンター内展示ホールの 10 か所で開催されました。「生命のメッセージ展」の参加家族が開催した津市以降の開催は、主に有志の大学生が中心となって企画・運営を行なってきました。

2010 年からは年に 1 回、「生命のメッセージ展 in みえ」として、大学の垣根を越えて、三重県大学連合という形で有志の大学生が集まり、三重県各地で開催をしています。

今回の「生命のメッセージ展 in みえ」には 2001 年の大阪教育大学附属池田小学校児童殺傷事件で犠牲になられた天使たちがゲストメッセンジャーとして参加していただくことになりました。安全であるはずの学校で、みんなが大好きな学校で、なぜ命を奪われなければならなかったのでしょうか。現在参加されている 155 名のメッセンジャーと同じように彼女たちの命もこの世にたったひとつしかない、かけがえのない命なのです。

生きたくても生きられなかった人たちのために、今生きている私たちができること。それは命の大切さを伝えること、同じような事件・事故がおこらないようにすることではないでしょうか。もう二度とかけがえのない命が理不尽に奪われてしまうことがないように一精一杯生き抜いた命をみなさんの目を見て、メッセンジャーの想いを感じていただきたいのです。そして命の大切さを改めて感じてください。たくさんのメッセンジャーの生きた証がどうかみなさんの生きていく意志になりますように。

「希 (のぞみ)」



「生命のメッセージ展 in みえ」実行委員会
実行委員長 田中 勝利
(四日市大学 4 年)

「生きた証を 生きていく意思に」・・・この言葉とともに私が初めてメッセンジャーと出逢ったのは、2010 年に鈴鹿市民会館で開催された「生命のメッセージ展」です。これまで何気ない日常の中で、「生命」についてほとんど考える機会がなかった私に、どのように生きていくべきなのか、自分に何が出来るのか、大きなショックを受けました。昨年からは実行委員として活動し、今回の開催で「生命のメッセージ展 in みえ」も 4 回目を迎えることができました。

初めて来場される方も会場の 155 名のメッセンジャーとの出逢いから、「生命」についての新たな想いを感じていただきたいです。

今年度はテーマを「希(のぞみ)」としています。メッセンジャー一人ひとりの生きた証から、生きることを感じ、生きるエネルギーとなる希望を受け取っていただきたいと思います。そして、来場された一人ひとりが家族や友人、これから出逢う多くの人たちに、希望のメッセージを届けてほしいと願っています。

最後になりましたが、「生命のメッセージ展 in みえ」の運営、開催にあたりご協力を賜りました協賛各社ならびにご尽力戴きました関係者の皆様に、実行委員を代表して心から御礼申し上げます。